



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2016年 6月 1日発行

6月号 向日市上植野町西小路3-4
No. 64 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

7月
参院選

改憲への暴走止める選挙



杉谷伸夫・61才
向日市議会議員・市民クラブ
上植野町イトーピア在住

7月10日投開票の参議院選挙は、日本社会の進路を左右する、特別な意味を持つ選挙です。もし自公など改憲推進側が勝てば、憲法改悪の手続きが始まります。最終標的は憲法9条の無効化です。

昨年安倍政権は、憲法違反だとの批判を無視して「日本が戦争できる」法律を強行制定し、今度は憲法自体を変えようとしています。私は絶対に反対です。改憲側（自・公・維新）に参議院の3分の2の議席を絶対に与えないこと、これが参院選の最大の焦点です。

1%の富裕層のための政治を変える！

パナマ文書は、世界中の富裕層が税金を払わず、蓄財している仕組みを暴露しました。でもそれはほんの一部です。日本の政治全体が、税金を金持ちから取らずに庶民から取り立てる仕組みになっています。安倍政権の下で大企業は数十兆円も減税してもらい、消費税増税と社会保障費の削減で庶民にそのしわよせが来ています。労働者の4割以上が非正規で、実質賃金は下がり続けていますが、安倍首相は「企業が世界中で一番活動しやすい国にする」と自慢。「ダメだ！」とはっきり言ひましょう。政治を変えるために、あきらめないで！投票に行きましょう。（5月24日・杉谷伸夫）

杉谷伸夫は参院選の 詳細2面
比例区は、福島みずほさん
選挙区は、大河原としたかさん
を応援しています

向日市議会6月定例会

- 議会会期：6月6日（月）～24日（金）
- 一般質問：6月14日（火）～16日（木）
- 杉谷伸夫の一般質問は、6月15日（水）見込（おそらく午前中の見込みです）

6/11講演会『危機に瀕する 放送メディアの独立性』

- お話：小山田春樹さん
(元日本テレビアナウンサー・報道部記者、
現フリージャーナリスト)
- 日時：6月11日（土）10時～12時
- 会場：寺戸公民館・大会議室
- 参加費：300円
- 主催：市民参加でまちをつくる会
(連絡・問合せ：090-8384-5984 杉谷)
- 定員：50名

連絡先

ご相談はまずお電話を！ TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



特集

参院選—私はこう思う

国民の多数は、改憲など望んでいないことは、世論調査でも明らかです。しかし参院選の結果、自公などが議席の3分の2を占めれば、安倍政権は議席の数で押し通すことは目に見えています。だから改憲に反対する議員が多数を占めるよう、京都選挙区では改憲を進める自民現職に退場してもらわなければなりません。共産党の大河原さんは、イラク派兵差し止め訴訟などをともに取り組んだ人権派弁護士で、信頼できる人です。比例区では、国会や政府に対する様々な市民運動の窓口となって尽力された、福島みずほさんの存在はとても大きいと思います。

(杉谷伸夫)

愛をカタチに

子どもを保育所に預けて契約社員として働いている。毎日忙しく、時間と自分の心に余裕がないときは小学4年と2歳の娘たちにイライラをぶつけてしまい、親として反省の繰り返し。

「日々の糧を得るために働く。人生の伴侶を得て、子どもを生み育てる。」長い間繰り返されてきた生きものとしての人間の営みが、私たちの社会ではいつの間にか、こんなに大変なものになってしまった

のだろうか？私の願いは、自分、家族、そして周りにいる人たちが幸せであること。自分の仕事が心を込めてできること。「お金」は必要だけど幸せではない。大切なものは「いのち」であり、人々が幸せに暮らすことだ。

原発事故の責任は問われず、放射能を撒き散らした地に人々を置き去りにし、見捨てる。オリンピックで目を眩ませ、現実をごまかす。不正は至る所で行われているが、そんなことがあっていいはずがない！愛をカタチにするために、この時代に、この国に生まれた幸せに感謝して、「平和」を守るために投票をしようと思う。

(藤原京子)



振り向けば戦争の危険

東京オリンピック招致をめぐるスキャンダル、舛添都知事の乱脈な税金使いと見苦しい弁明会見は、トウキョウニュースとして世界に配信された。東京オリンピックはメイン会場問題、エンブレム問題もあり、素直に受け入れがたい。

福島原発事故とその収束にあえぐ実情、熊本震災被害、深刻化する国民生活の問題は未解決で、メダル獲得競争で国威発揚をもくろむ。ガンバレニッポンの大合唱で、自民政権安泰の筋書きと映る。平和と友情の祭典のオリンピックの開催国日本に戦争法はふさわしくない。

日本政治の右傾化の影の力・日本会議に報道のスポットが当たる。安倍内閣の閣僚の過半数がこのメンバーだという。戦前の1930年代、「京大俳句」の渡辺白泉は「戦争が廊下の奥に立っていた」と詠んだ。高市総務大臣の「電波停止」発言もある。不気味な足音が聞こえそう。今夏の参院選は、平和憲法を守る一票しよう。

(鶏冠井町 徳本茂孝)

テロや戦争に怯える社会に経済成長なんて意味がない

10代の有権者の関心のある政策課題は、景気や雇用など身近な生活に直結することで、憲法改正は最下位だそうです。アベノミクスが景気改善に効果的なのか甚だ疑問ですし、そもそも常に敗者を産み出さないと成り立たない現代の自由主義的資本主義経済で「経済成長する」罪を考えなくてははいけません。先日、来日したムヒカ元大統領が言うように、物欲に支配されない心が豊かな生活を目指したいものです。

しかし、百歩譲って経済成長を多数が望むのであっても、テロや戦争に怯える社会で「豊かな生活」が送れるのでしょうか？

民主党政権は「決められない政治」と批判を受けましたが、安倍政権の「決められる政治」の怖さを今回いやというほど感じました。次の選挙では、改憲側に3分の2を与えない。これに尽きると思います。

(Y. I)

変えよう、変わろう！

70過ぎのじいさんがつらつら思うに、この10年ほど日本人は段々おかしくなっているようだ。姑息になって、バレなければ平気で嘘をつく。大企業の税金を安くして、足りない分を消費税でまかない、企業は努力もせず賃金を押さえ込むために非正規社員を増やしていく。それを強力に進めたのが現政権だ。アベノミクスは、いつまでたっても景気が良くならない弱い者いじめである。



その安倍政権が、この選挙にむけて「憲法改正」をうたっている。本音は9条を骨抜きにすることであろうが、世論の反対が強いため正面に立てているのが「緊急事態条項」ということらしい。たとえば、首都直下地震が起こったとすると、首相の一声で現行の法律は停止され、首相の思いのままにできる独裁法だ。

話が変わって、もしトランプ氏が米国大統領になって米軍駐留経費を大幅に増やせ（金を出せ）と言ってきた時、どう対応するだろう。「ご苦労様でした。どうぞ基地をお引き取りください」と言える人が出てこないかな。夢かな。

(73歳・坂本邦彦)

怒
！



パ
ナ
マ
文
書

腹の立つことばかり

最近腹の立つことばかり。どうして政治は、こうも国民の声に耳を傾けないのか。安保安法案、辺野古の基地、原発問題…。自分が払ってきた年金基金が、なぜ勝手に株に投資されているのだ。暴落したら誰が責任をとるのか。もうすぐ定年を迎える身としては、とても心配だ。

若者は安定した誇りある仕事につけず、自分の未来に希望を持ってない。大学を卒業しても、奨学金という多額の借金返済に追われている。私たち庶民は少ない収入からもきっちり税金を払っているのに、パナマ文書に見られるように、大金持ちは税を逃れて多額の蓄財をしている。

今特に気に掛かるのは、地震で川内原発や伊方原発に何かあれば、放射能は偏西風に乗ってこちらに向かってくることだ。西日本一帯が住むことができなくなり、私たちは難民となるかもしれない。金より命ではないか。(涸沢)

杉谷伸夫の

視 察 報 告

5月16-17日、他市の市民派議員数名と千葉県野田市（公契約条例）、東京都足立区（窓口の民間委託、子どもの貧困対策）、東京都日野市（市民に開かれた市政図書館）を視察してきました。

徹底した民間委託に疑問：足立区

足立区（69万人）では、4月から戸籍窓口に加えて、国民健康保険、介護保険などの窓口業務が民間委託されました。最大の目的は職員の削減です。これまで民間委託はふさわしくないとされてきた仕事も、民間企業に請け負わせる方針です。

国保の窓口に行くと、目に付くのは委託先企業の労働者ばかりです（名札のひもの色が違う）。

経費削減を名目に、市の正規職員を民間企業の低い労働条件の労働者に置き換えてゆくことが、果たして良いことなのか。働く人の賃金水準が年々下がっており、国や市の公共発注がその先導役を果たしていることが社会問題になっています。こうした問題としても考える必要があります。

公契約条例で賃金と仕事の質を確保：野田市

日本で初めて公契約条例を制定した千葉県野田市。公契約条例とは、自治体が発注する仕事に従事するすべての労働者の賃金水準を、一定以上確保することを義務づける条例です。7年前に市議会の全会一致で制定されました。今は定着し、そのことによって野田市では、公共工事に従事する労働者の質が確保され、工事の品質確保にも役立っているようでした。向日市でもぜひ制定にむけて検討を進めたいと思います。

憲法の日 5月3日の新聞から

安野 洋子

今年の5月3日の新聞でホットしたことが沢山ある。

改憲不要が55%、必要が37%と言う事。特に9条改憲反対が68%にもなると言う。昨年の安倍内閣の戦争法と言われる法律に対しての反発で平和志向が大きくなったのだろう。それに紙面一面の「立憲者私たち」と言う意見広告の11,607名の署名も迫力があつた。

しかし私が一番関心を持ったのは声の欄の83歳の人からの投書だった(下記)。「地獄を繰り返すな」と言う記事の中に二度と味わいたくない敗戦前後の言葉が書かれていた。

「安全保障を巡る最近の政治に、危機感を抱く。長く続いた戦後は終わり、もう「戦前」ではないのか。かつて聞かされた「二度と味わいたくない言葉」を次々に思い出す。

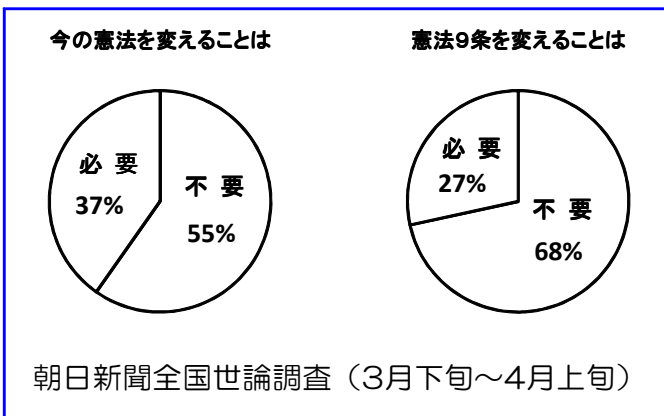
『日中戦争開始2年後1939年小学校入学；奉安殿、御真影、汝臣民、紀元節、天長節、現人神、恐れ多くも、八紘一宇、忠君愛国、肉弾三勇士』
『41年太平洋戦争突入；大東亜共栄圏、神風、一

億一心、翼賛政治、海ゆかば、撃ちてしやまん、九軍神、上官の命令は陛下の命令、赤紙、一銭五厘の命、千人針、鬼畜米英、海軍精神注入棒、往復ピンタ、在郷軍人、大日本婦人会、銃後の守り』

『戦局悪化；大本営発表、憲兵、特高、検閲、非国民、学徒動員、贅沢は敵だ、衣料切符、玉砕、英霊、白木の箱、遺族の家、空襲警報、B29、グラマン、機銃掃射、絨毯爆撃、焼夷弾、学童疎開、竹槍、防空壕、特攻、集団自決、731部隊、ピカドン、』
『敗戦；玉音放送、進駐軍、闇市、戦災孤児、食糧難、隠匿物資、シベリア抑留、引き揚げ』

主権在民の平和憲法施行からちょうど69年。これからの若者たちに何が、どんな言葉が待つのだろう。絶対に、あの地獄を経験させてはならない。

敗戦の時小学校2年であった私は全部覚えている。本当にいまわしい言葉ばかりだ。こんな言葉が繰り返されることのないよう、主権在民の現在を大切に、世の中の動きにきびしい目を持ち続けなくてはならないと痛感した。



向日市の防災

出前講座を開催 「今後も開いて」の声

5月14日、向日町会館で、向日市の防災安全課の職員に来て頂き、新しく発行された『向日市防災マップ』を使って出前講座を行っていただきました。とても良かったと好評でしたが、これ1回に留まらず、継続してこうした機会を持つよう要望が多く寄せられました。参加者の意見の一部を紹介します。(杉谷)

●高齢になり動けず、町内会とのつながりも無くなり、災害時にどうなるだろうと不安になる。行政のしっかりした支援体制を望みます。

●上植野町のJR東側地域は、水害時の避難路は地下道しかない。5向小に通う子どもが心配。



●参加してよかった。地震発生の可能性が多いこの時代、今後も開いてほしい。